



京都大学
大学院工学研究科工学部 概要

2010



目次

1. 理念	02・03
2. アドミッションポリシー	04・05
3. 沿革	06
4. 組織図	07
5. 大学院の専攻別講座等名、学部の学科別学科目名	08
6. 平成22年度役職者一覧	09
7. 職員数	10
8. 学生数	11
9. 平成22年度入学状況	12
10. 卒業・修了状況及び学位授与者数	13
11. 研究生、外国人留学生、招へい外国人学者及び部局間協定一覧	14～16
12. 教育・研究プロジェクト等	17
13. 工学部公開講座	18
14. 図書関係	19
15. 予算関係及び建物面積	20





工学研究科・工学部の理念

学問の本質は真理の探求である。

その中であって、工学は人類の生活に直接・間接に関与する学術分野を担うものであり、分野の性格上、地球社会の永続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っている。

京都大学工学研究科・工学部は、上の認識のもとで、基礎研究を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を図るとともに、高度の専門能力と高い倫理性、ならびに豊かな教養と個性を兼ね備えた人材を育成する。

このような研究・教育を進めるにあたっては、地域社会との連携と国際交流の推進に留意しつつ、研究・教育組織の自治と個々人の人権を尊重して研究科・学部の運営を行い、社会的な説明責任に応えるべく可能な限りの努力をする。

京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多角的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

平成13年12月4日制定

工学研究科の理念・目的

学問の本質は真理の探求です。その中において、工学は人類の生活に直接・間接に関与する学術分野を担っており、地球社会の持続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っています。京都大学大学院工学研究科は、この認識のもとで、基礎研究を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を先導するとともに、高度の専門能力と創造性、ならびに豊かな教養と高い倫理性を兼ね備えた人材を育成することをめざしています。

修士課程では、広い学識と国際性を修得させ、自ら課題を発見し解決する能力を有する高度技術者、研究者を、博士後期課程では、研究を通じた教育や実践的教育を介して、創造的研究チームを組織し新しい研究分野を国際的に先導することのできる研究者を育成します。この目的を達成するため、工学研究科では、修士課程教育プログラムに加えて、修士課程と博士後期課程を連携する教育プログラムを開設し、豊富な科目を幅広く提供します。

■工学研究科が望む学生像

工学研究科では、次のような入学者を求めます。

1. 工学研究科が掲げる理念と目的に共感し、これを遂行するための基本的能力と意欲を有する人。
2. 自ら真理を探求するために必要な基礎学力を有し、既成概念にとらわれない認識力と判断力を有する人。
3. 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲と実行力に満ちた人。



工学部が望む学生像

京都大学工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」とは、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るといことです。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」といいますと、やや異質な印象をもたれるかもしれません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

教育内容をもう少し詳しく説明しておきます。京都大学工学部へ入学すると、1～2回生で、一般的な教養教育、英語他の外国語教育、理系全般に共通の基礎教育をうけます。また、それぞれの学科・コース特有の専門教育も1回生から始まり、しだいにその重みを増していきます。4回生になると、特別研究という科目で学生1人1人が特定のテーマに取り組みます。特別研究では、学生は希望の研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、指導教員・大学院生と一緒に研究が出来るようになっています。学部卒業後、大学院へ進学すれば、より高度な専門教育と研究指導をうけられます。これまで、京都大学工学部は、上のような教育を通して、幅広い応用能力、まったく新しい未知なる課題へ敢然と取り組む自主性・創造性、および豊かな教養と厳しい倫理観を備えた卒業生を輩出してきました。

■望ましい学生像

このような教育を受けていただくために、次のような入学者を求めています。

1. 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
2. 既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
3. 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティーに満ちた人。

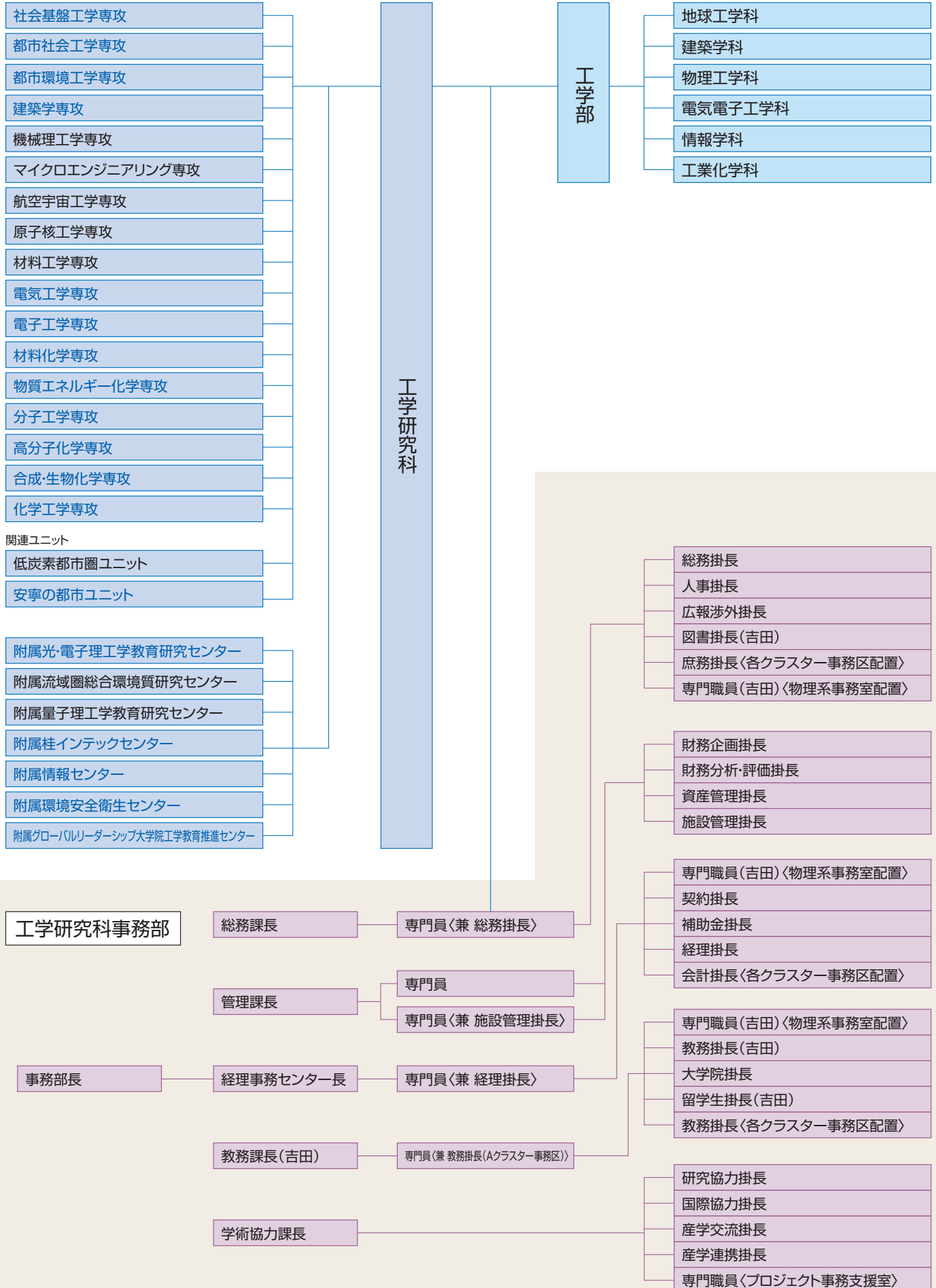
3. 沿革

明治30.	6	京都帝国大学設置
	9	理工科大学開設 土木工学科, 機械工学科設置
31.	9	電気工学, 採鉱冶金学, 製造化学の3学科設置
大正 3.	7	理工科大学を理科大学と工学大学に分離
	9	土木・機械・電気・採鉱冶金・工業化学科を設置
	8.	2 工科大学は工学部となる
	9.	8 建築学科設置
昭和14.	3	燃料化学科設置
	15.	4 化学機械学科設置
	16.	3 繊維化学科設置
	17.	3 採鉱冶金学科を鉱山学科と冶金学科に分離, 航空工学科設置
	21.	1 航空工学科廃止, 応用物理学科設置
	22.	9 京都帝国大学が京都大学と改称
	24.	5 新制京都大学設置
	28.	4 大学院工学研究科設置
	29.	4 電子工学科設置
	30.	4 応用物理学科を航空工学科に改称
	32.	4 大学院工学研究科原子核工学専攻設置
	33.	4 原子核工学科, 衛生工学科設置
	34.	4 オートメーション研究施設, 数理工学科設置
	35.	4 精密工学科, 合成化学科設置
	36.	4 電気工学第二学科, 金属加工学科, 電離層研究施設設置 繊維化学科を高分子化学科, 化学機械学科を化学工学科に改組, 改称
	37.	4 機械工学第二学科設置
	38.	4 交通土木工学科設置
	39.	4 建築学第二学科設置, 鉱山学科を資源工学科に改称
	41.	4 超高温プラズマ研究施設設置 燃料化学科を石油化学科に改組, 改称
	45.	4 情報工学科設置
	50.	4 機械工学第二学科を物理工学科に改組, 改称
	51.	5 超高温プラズマ研究施設が京都大学ヘリオトロン核融合研究センターとして発足
	53.	4 イオン工学実験施設設置
	56.	4 電離層研究施設が京都大学超高層電波研究センターとして発足
	58.	4 分子工学専攻設置
	60.	4 環境微量汚染制御実験施設設置
	61.	4 重質炭素資源転換工学実験施設設置
	62.	5 応用システム科学専攻設置
平成元.	5	オートメーション研究施設廃止, 高度情報開発実験施設設置
	3.	4 環境地球工学専攻設置
	4.	4 メゾ材料研究センター設置
	5.	4 化学系の改組 学部の5学科(工業化学, 石油化学, 化学工学, 高分子化学, 合成化学)を工業化学科に, 研究科の5専攻(学科に同じ)と分子工学専攻を材料化学, 物質エネルギー化学, 分子工学, 高分子化学, 合成・生物化学, 化学工学の6専攻に改組
	6.	6 物理系の改組 学部の7学科(機械工学, 冶金学, 航空工学, 原子核工学, 精密工学, 金属加工学, 物理工学)を物理工学科に, 研究科の7専攻(学科に同じ)を, 機械工学, 機械物理学, 精密工学, エネルギー応用工学, 原子核工学, 材料工学, 航空宇宙工学の7専攻に改組
	7.	4 電気系及び情報系の改組 学部の, 電気工学科, 電子工学科, 電気工学第二学科の3学科を電気電子工学科に, 数理工学科及び情報工学科の2学科を情報学科に, 研究科の6専攻(電気工学, 電子工学, 電気工学第二, 数理工学, 情報工学, 応用システム科学)を電気工学専攻, 電子物性工学専攻, 電子通信工学専攻, 数理工学専攻, 情報工学専攻, 応用システム科学専攻に各々改組

平成 7.	4	環境微量汚染制御実験施設を環境質制御研究センターに名称変更
	8.	4 土木系及び建築系の改組 学部の, 土木工学科, 衛生工学科, 交通土木工学科, 資源工学科の4学科を地球工学科に, 建築学科及び建築学第二学科の2学科を建築学科に改組 また, 研究科の7専攻(土木工学, 衛生工学, 交通土木工学, 資源工学, 建築学, 建築学第二, 環境地球工学)を土木工学専攻, 環境工学専攻, 土木システム工学専攻, 資源工学専攻, 建築学専攻, 生活空間学専攻, 環境地球工学専攻に各々改組し, 大学院重点化を完了 エネルギー科学研究科の新設に伴い, エネルギー応用工学専攻を廃止 附属重質炭素資源転換工学実験施設の廃止
	9.	4 高度情報実験施設は, 総合情報メディアセンターへの統合により廃止
	10.	4 情報学研究科の新設に伴い, 電子通信工学専攻, 数理工学専攻, 情報工学専攻及び応用システム科学専攻を廃止 附属イオン工学実験施設, 附属メゾ材料研究センター及び附属環境質制御研究センターが, 学部附属施設から研究科附属施設に転換
	11.	4 附属量子理工学研究実験センター設置
	13.	4 附属柱インテックセンター設置
	14.	3 附属メゾ材料研究センター廃止
	4	附属情報センター設置
	15.	4 地球系及び建築系の改組, 並びに電気系の名称変更 研究科の5専攻(土木工学, 土木システム, 資源工学, 環境工学, 環境地球工学)を社会基盤工学, 都市社会工学, 都市環境工学の3専攻に改組 また, 生活空間学専攻を廃止し, 電子物性工学専攻を電子工学専攻に名称変更
	10	柱キャンパス開学 電気工学, 電子工学, 材料化学, 物質エネルギー化学, 分子工学, 高分子工学, 合成・生物化学, 化学工学の8専攻及び附属イオン工学実験施設が, Aクラスターへ移転
	16.	4 附属環境安全衛生センター設置
	10	事務部が柱キャンパスBクラスターへ, 建築学専攻がCクラスターへ移転
	17.	4 研究科の4専攻(機械工学, 機械物理学, 精密工学, 航空宇宙工学)を機械理工学, マイクロエンジニアリング, 航空宇宙工学の3専攻に改組 附属環境質制御研究センターを附属流域圏総合環境質研究センターに改組 寄附講座「日中環境技術研究講座」設置
	18.	10 社会基盤工学, 都市社会工学, 都市環境工学の3専攻が柱キャンパスCクラスターへ移転
	19.	4 附属イオン工学実験施設を改組し, 附属光・電子理工学教育研究センターを設置
	5	寄附講座「エネルギー資源開発工学(JAPEX)講座」設置
	12	グローバルリーダーシップ大学院工学教育推進センター設置
	20.	4 寄附講座「社会基盤安全工学(JR西日本)講座」設置
	20.	7 寄附講座「先端電池基礎講座」設置
	21.	4 寄附講座「先進交通ロジスティクス工学(阪神高速道路)講座」設置 附属量子理工学研究実験センターを附属量子理工学教育研究センターに改組 寄附講座「先進交通ロジスティクス工学(阪神高速道路)講座」設置 附属量子理工学研究実験センターを附属量子理工学教育研究センターに改組
	21.	11 低炭素都市圏政策ユニット設置
	22.	4 安寧の都市ユニット設置

4. 組織図

青字：桂キャンパス



5. 大学院の専攻別講座等名、学部の学科別学科目名

1. 大学院の専攻別講座等名

大学院	専攻	講座
工学研究科 17専攻 83講座 7施設	社会基盤工学専攻	応用力学、資源工学、構造工学、水工学、地盤力学、空間情報学、都市基盤設計学
	都市社会工学専攻	都市社会計画学、交通マネジメント工学、地震ライフライン工学、構造物マネジメント工学、河川流域マネジメント工学、ジオマネジメント工学、ロジスティクスシステム工学、地殻環境工学
	都市環境工学専攻	環境デザイン工学、環境システム工学、環境衛生学
	建築学専攻	建築保全再生学、人間生活環境学、建築史学、建築構法学、建築環境計画学、建築設計学、建築構造学、建築生産工学、都市空間工学、居住空間学、環境材料学、環境構成学
	機械理工学専攻	機械システム創成学、生産システム工学、機械材料力学、流体理工学、物性工学、機械力学、バイオエンジニアリング
	マイクロエンジニアリング専攻	構造材料強度学、ナノシステム創成工学、ナノサイエンス、マイクロシステム創成
	航空宇宙工学専攻	航空宇宙力学、航空宇宙基礎工学、航空宇宙システム工学
	原子核工学専攻	量子ビーム科学、量子物質工学、核エネルギー工学
	材料工学専攻	材料設計工学、材料プロセス工学、先端材料物性学、材料物性学、先端材料機能学、材料機能学
	電気工学専攻	複合システム論、電磁工学、電気エネルギー工学、電気システム論
	電子工学専攻	集積機能工学、電子物理工学、電子物性工学、量子機能工学
	材料化学専攻	機能材料設計学、無機材料化学、有機材料化学、高分子材料化学、ナノマテリアル
	物質エネルギー化学専攻	エネルギー変換化学、基礎エネルギー化学、基礎物質化学、触媒科学
	分子工学専攻	生体分子機能化学、分子理論化学、量子機能化学、応用反応化学
	高分子化学専攻	先端機能高分子、高分子合成、高分子物性
	合成・生物化学専攻	有機設計学、合成化学、生物化学
化学工学専攻	環境プロセス工学、化学工学基礎、化学システム工学	
附属教育研究 施設等	光・電子理工学教育研究センター	平成19年 4月開設 京都市西京区京都大学桂
	流域圏総合環境質研究センター	平成17年 4月開設 大津市由美浜1の2
	量子理工学教育研究センター	平成21年 4月開設 宇治市五ヶ庄
	桂インテックセンター	平成13年 4月開設 京都市西京区京都大学桂
	情報センター	平成14年 4月開設 京都市西京区京都大学桂
	環境安全衛生センター	平成16年 4月開設 京都市西京区京都大学桂
	グローバルリーダーシップ大学院工学教育推進センター	平成19年12月開設 京都市西京区京都大学桂
	低炭素都市圏政策ユニット	平成21年 4月開設 京都市中京区烏丸通四条上ル笋町688
	安寧の都市ユニット	平成22年 4月開設 京都市西京区京都大学桂

2. 学部の学科別学科目名

学部	学科	学科目
工学部 6学科 14学科目	地球工学科	土木工学、環境工学、資源工学
	建築学科	建築学
	物理工学科	機械システム学、材料科学、エネルギー理工学、宇宙基礎工学
	電気電子工学科	電気電子工学
	情報学科	計算機科学、数理工学
	工業化学科	創成化学、工業基礎化学、化学プロセス工学

6. 平成22年度役職者一覧

工学研究科長・工学部長	
	小森 悟
副研究科長	
評議員	谷口 栄一
評議員	伊藤紳三郎
	竹脇 出
	北野 正雄
専攻長	
社会基盤工学専攻	川崎 雅史
都市社会工学専攻	大津 宏康
都市環境工学専攻	津野 洋
建築学専攻	吹田啓一郎
機械理工学専攻	北村 隆行
マイクロエンジニアリング専攻	琵琶 志朗
航空宇宙工学専攻	泉田 啓
原子核工学専攻	山本 克治
材料工学専攻	辻 伸泰
電気工学専攻	土居 伸二
電子工学専攻	鈴木 実
材料化学専攻	平尾 一之
物質エネルギー化学専攻	安部 武志
分子工学専攻	田中 一義
高分子化学専攻	長谷川博一
合成・生物化学専攻	跡見 晴幸
化学工学専攻	山本 量一
施設長	
附属光・電子理工学教育研究センター	野田 進
附属流域圏総合環境質研究センター	津野 洋
附属量子理工学教育研究センター	伊藤 秋男
附属桂インテックセンター	三浦 孝一
附属情報センター	北野 正雄
附属環境安全衛生センター	吉崎 武尚
附属グローバルリーダーシップ大学院 工学教育推進センター	榎木 哲夫

学科長	
地球工学科	椎葉 充晴
建築学科	高橋 大弐
物理工学科	永田 雅人
電気電子工学科	北野 正雄
情報学科	岩間 一雄
工業化学科	大江 浩一
工学研究科事務部	
事務部長	増地 公一
総務課長	大當 徳則
専門員	奥村 晃弘
管理課長	田村 京市
専門員	上浦 康孝
専門員	足立 融正
経理事務センター長	鳥塚 長睦
専門員	東部 浩志
教務課長	窪田 耕治
専門員	藤井 芳克
学術協力課長	疋田 覚

7. 職員数

教員

(黒字：吉田地区等、青字：桂地区) 平成 22.4.1 現在

区 分	教 員				合 計
	教授	准教授	講師	助教	
社会基盤工学専攻	15 (1)	15 (2)	2	15 (2)	47 (5)
都市社会工学専攻	8 (2)	12 (2)	4	13	37 (4)
都市環境工学専攻	3 (1)	6 (1)	1	7 (1)	17 (3)
建築学専攻	14	12	1	13	40
機械理工学専攻	14	8	4	14	40
マイクロエンジニアリング専攻	6	4		8	18
航空宇宙工学専攻	5	4	1	5	15
原子核工学専攻	5	4	2	5	16
材料工学専攻	10	11	1	10	32
電気工学専攻	6	6	2	8	22
電子工学専攻	6	8	3	11	28
材料化学専攻	6	5	1	8	20
物質エネルギー化学専攻	9	4	3	8	24
分子工学専攻	3 (1)	6	1	5	15 (1)
高分子化学専攻	7	5	3	7	22
合成・生物化学専攻	8 (1)	2	4	13	27 (1)
化学工学専攻	6 (1)	4 (1)	2	12 (1)	24 (3)
附属光・電子理工学教育研究センター	2 [1]			2	4 [1]
附属流域圏総合環境質研究センター	2 [1]	1	1	1	5 [1]
附属量子理工学教育研究センター	1 [1]	2			3 [1]
附属桂インテックセンター	[1]				[1]
附属情報センター	[1]		[1]		[2]
附属環境安全衛生センター	[1]		[2]		[3]
附属グローバル・リーダーシップ大学院工学教育推進センター	[1]		2		2 [1]
合 計	136(93+43)(7)[7]	119(85+34)(6)	38(29+9)[3]	165(122+43)(4)	458(329+129)(17)[10]

注1：表中の()内は大学院地球環境学堂、大学院経営管理研究部、物質－細胞統合システム拠点、学術情報メディアセンターとの流動教員であって外数。

注2：表中の[]内は兼務教員であって外数。

職員

(黒字：吉田地区、青字：桂地区) 平成 22.4.1 現在

区 分	事務職員	教務、技術職員	合 計	
社会基盤工学専攻		3		
都市社会工学専攻	Cクラスター事務区	2	25	
都市環境工学専攻		2		
建築学専攻		3		
地球工学科建築学専攻	地球工学科事務室	3	3	
建築学科	建築学科事務室	2	2	
機械理工学専攻	物理系事務室	3	27	
マイクロエンジニアリング専攻		1		
航空宇宙工学専攻				
原子核工学専攻		3		
材料工学専攻		6		
物理工学科				
電気工学専攻	Aクラスター事務区	1	26	
電子工学専攻		2		
材料化学専攻		1		
物質エネルギー化学専攻		1		
分子工学専攻		1		
高分子化学専攻		4		
合成・生物化学専攻				
化学工学専攻				
電気電子工学科	電気電子工学科事務室	3	3	
工業化学科	工業化学科事務室	4	4	
情報学科		1	1	
附属桂インテックセンター		3	3	
附属情報センター		5	5	
附属環境安全衛生センター		4	4	
	事務室	72 (57+15)	6 (5+1)	78 (62+16)
合 計		130 (89+41)	51 (32+19)	181 (121+60)

8. 学生数

》 1. 大学院

(黒字：吉田地区、青字：桂地区) 平成 22.4.1 現在

専攻	区分	修士課程		博士後期課程					合計		
		1年次	2年次	1年次	2年次	3年次					
社会基盤工学		74	51	19	(6)	18	(7)	14	(6)	176	(19)
都市社会工学		60	52	16	(8)	17	(8)	25	(11)	170	(27)
都市環境工学		33	90	23	(15)	23	(6)	32	(4)	201	(25)
建築学		81	61	17	(7)	17	(5)	20	(4)	196	(16)
機械理工学		62	67	15	(3)	10	(1)	14	(6)	168	(10)
マイクロエンジニアリング		27	23	8	(2)	4	(2)	5	(1)	67	(5)
航空宇宙工学		19	21	8		2		7	(1)	57	(1)
原子核工学		22	33	4	(1)	7	(1)	10	(2)	76	(4)
材料工学		40	41	6		14	(7)	12	(4)	113	(11)
電気工学		40	40	5		7	(2)	6	(1)	98	(3)
電子工学		35	38	16	(3)	10	(3)	13	(3)	112	(9)
材料化学		28	31	4	(1)	12	(1)	8	(1)	83	(3)
物質エネルギー化学		37	36	11	(1)	9	(1)	13	(1)	106	(3)
分子工学		33	36	3		10	(2)	12	(3)	94	(5)
高分子化学		48	49	11		10	(3)	15	(2)	133	(5)
合成・生物化学		34	29	8	(1)	6		16	(3)	93	(4)
化学工学		33	34	8	(4)	5	(3)	10	(3)	90	(10)
合計		706	732	182	(52)	181	(52)	232	(56)	2033	(160)
(吉田地区合計)		170	185	41	(6)	37	(11)	48	(14)	481	(31)
(桂地区合計)		536	547	141	(46)	144	(41)	184	(42)	1552	(129)

注：表中の()内は10月入学者で内数。

》 2. 学部

平成 22.4.1 現在

学科	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
地球工学		194	191	190	238	813
建築学		83	84	84	100	351
物理工学		240	234	240	337	1051
電気電子工学		134	135	143	204	616
情報学		93	92	93	158	436
工業化学		246	249	245	330	1070
合計		990	985	995	1367	4337

9. 平成22年度入学状況

1. 大学院

修士課程			
専攻	入学定員	入学志願者	入学者数
社会基盤工学	66	50 (6)	69 (5)
都市社会学	64	49 (5)	56 (4)
都市環境工学	36	102 (8)	29 (4)
建築学	72	70 (14)	69 (12)
機械理工学	56		59 (3)
マイクロエンジニアリング	28	144 (7)	26 (1)
航空宇宙工学	23		19
原子核工学	23	29	22
材料工学	38	50 (7)	37 (3)
電気工学	38	85 (12)	37 (3)
電子工学	35		33 (2)
材料化学	29		27 (1)
物質エネルギー化学	38		36 (1)
分子工学	34	234 (9)	32 (1)
高分子化学	46		46 (2)
合成・生物化学	31		31 (3)
化学工学	31	43 (3)	32 (1)
合計	688	856 (71)	660 (46)

注：表中の()内は外国人留学生で外数。社会基盤工学専攻、都市社会学専攻、都市環境工学専攻、建築学専攻においては、再編により志願専攻と入学専攻が異なる学生が存在する。

博士後期課程			
専攻	入学定員	入学志願者	入学者数
社会基盤工学	12	9 [4] (2)	12 [5] (1)
都市社会学	12	5 [2] (2)	6 [3] (2)
都市環境工学	10	8 [2] (7)	3 (5)
建築学	24	2 (7)	1 (9)
機械理工学	18	11 [2] (1)	11 [2] (1)
マイクロエンジニアリング	8	6 (1)	5 (1)
航空宇宙工学	8	7 [1] (1)	7 [1] (1)
原子核工学	9	3	3
材料工学	10	6 [1] (3)	4 [1] (2)
電気工学	10	4 (1)	4 (1)
電子工学	10	12 (1)	12 (1)
材料化学	9	4 [1]	3 [1]
物質エネルギー化学	11	12 [1] (1)	9 [1] (1)
分子工学	12	5 (1)	3
高分子化学	15	7 [2] (5)	6 [1] (5)
合成・生物化学	10	7 [1]	7 [1]
化学工学	9	3 (1)	3 (1)
合計	197	111 [17] (34)	99 [16] (31)

注：表中の[]内は社会人特別選抜で内数、()内は外国人留学生で外数。社会基盤工学専攻、都市社会学専攻、都市環境工学専攻、建築学専攻においては、再編により志願専攻と入学専攻が異なる学生が存在する。

2. 学部

平成 22.4.1 現在

学 科	区 分	入学定員	入学志願者			入学者		
			男	女	計	男	女	計
地球工学		185	442 (2)	48 (3)	490 (5)	177 (1)	17 (3)	194 (4)
建築学		80	160 (2)	74 (3)	234 (5)	54 (0)	29 (1)	83 (1)
物理学		235	552 (10)	34 (4)	586 (14)	230 (2)	10 (0)	240 (2)
電気電子工学		130	369 (9)	23 (2)	392 (11)	128 (1)	6 (1)	134 (2)
情報学		90	201 (1)	23 (2)	224 (3)	88 (1)	5 (0)	93 (1)
工業化学		235	546 (7)	94 (14)	640 (21)	213 (2)	33 (4)	246 (6)
合計		955	2,270 (31)	296 (28)	2,566 (59)	890 (7)	100 (9)	990 (16)

注：表中の()内は外国人留学生で内数。

10. 卒業・修了状況及び学位授与者数

1. 大学院修了者数（専攻別）

専攻	区分	修士課程		博士後期課程
		平成21年度	累計	平成22年4月1日現在 研究指導認定選学者累計
社会基盤工学		44	256	8
都市社会工学		49	285	10
都市環境工学		90	516	24
土木工学			1,996	143
交通土木工学			598	14
土木システム工学			240	23
資源工学			681	40
衛生工学			620	54
環境工学			205	8
環境地球工学			501	30
建築学	51	1,540	143	
建築学第二		514	51	
生活空間学		159	17	
機械理工学	64	237	4	
マイクロエンジニアリング	26	101	7	
機械工学		1,154	78	
物理学		462	38	
機械物理学		212	6	
精密工学		860	56	
原子核工学	21	960	136	
冶金学		634	47	
金属加工学		567	43	
材料工学	38	518	9	
エネルギー応用工学		57	2	
航空工学		388	32	
航空宇宙工学	25	260	12	
電気工学	27	1,157	98	
電子工学	36	1,024	79	
電子物性工学		227	15	
電気工学第二		730	67	
電子通信工学		110	2	
数理工学		785	84	
情報工学		508	44	
応用システム科学		342	10	
工業化学		1,263	212	
材料化学	30	417	20	
石油化学		758	137	
物質エネルギー化学	34	545	27	
分子工学	29	691	50	
高分子化学	51	1,603	268	
合成化学		582	157	
合成・生物化学	28	455	51	
化学工学	32	1,210	111	
合計		675	26,928	2,467

2. 博士学位授与者数

平成22.4.1現在

区分	工学博士	
	旧制	新制
旧制	大正9年6月以前の学位令によるもの	42 (28)
	大正9年7月以降の学位令によるもの	1,338
新制	大学院博士課程修了者	3,291
	論文提出によるもの	4,042
合計		8,713 (28)

注：表中の（ ）内は推薦によるもので内数。

3. 学部卒業生数（学科別）

学 科	年 度	昭和27年度～ 平成20年度	平成21年度	累計
土木工学		3,222		3,222
機械工学		2,122		2,122
電気工学		2,112		2,112
鉱山学		357		357
資源工学		1,073		1,073
冶金学		1,532		1,532
工業化学		2,125		2,125
建築学		2,207		2,207
燃料化学		443		443
石油化学		1,296		1,296
化学機械学		295		295
化学工学		1,244		1,244
高分子化学		1,225		1,225
繊維化学		250		250
応用物理学		116		116
電子工学		1,606		1,606
航空工学		810		810
原子核工学		714		714
衛生工学		1,390		1,390
数理工学		1,448		1,448
精密工学		1,379		1,379
合成化学		1,259		1,259
電気工学第二		1,447		1,447
金属加工学		1,220		1,220
機械工学第二		505		505
交通土木工学		1,284		1,284
建築学第二		1,149		1,149
情報工学		1,037		1,037
物理学		480		480
(新) 工業化学		2,894	237	3,131
(新) 物理学		2,804	231	3,035
電気電子工学		1,424	132	1,556
情報学		959	89	1,048
地球工学		1,867	175	2,042
(新) 建築学		851	82	933
合計		46,156	946	47,102

11. 研究生、外国人留学生、招へい外国人学者及び部局間協定一覧

1. 研究生等受入れ状況

平成 22.4.1 現在

専攻・学科	区 分					
	研究生	研修員	特別聴講学生	特別研究学生	短期交流学生	合計
社会基盤工学	1 (1)			2 (2)		3 (3)
都市社会学	4 (3)			1 (1)		5 (4)
都市環境工学	2 (2)					2 (2)
建築学	9 (3)	1				10 (3)
機械理工学	4 (3)	1		4		9 (3)
機械工学						
機械物理学						
マイクロエンジニアリング				1 (1)		1 (1)
精密工学						
原子核工学						
材料工学	1 (1)			3		4 (1)
航空宇宙工学						
電気工学	1 (1)	1				2 (1)
電子工学						
材料化学		3				3
物質エネルギー化学	1	1		2		4
分子工学						
高分子化学				2 (1)		2 (1)
合成・生物化学			1	2 (1)		3 (1)
化学工学	1 (1)					1 (1)
地球工学科						
建築学科						
物理工学科			1 (1)			1 (1)
電気電子工学科						
情報学科			1 (1)			1 (1)
工業化学科			1 (1)			1 (1)
合 計	24(15)	7	4 (3)	17 (6)	0 (0)	52(24)

注1：表中の()内は、外国人で内数。

注2：研修員は受託研究員を含む。

2. 外国人留学生国別一覧

平成 22.4.1 現在

地域・国名等	学部	大学院		合計
		修士課程	博士後期課程	
アジア (22)				
中国	56	49	42	147
マカオ	2			2
インドネシア	1	3	12	16
イラン			6	6
韓国	20	14	39	73
マレーシア	1	5	6	12
モンゴル	1			1
カンボジア		1		1
ネパール			8	8
パキスタン		1		1
バーレーン			1	1
ミャンマー			1	1
フィリピン			4	4
スリランカ			3	3
シンガポール			1	1
台湾		1	6	7
タイ		1	11	12
ベトナム	2	3	7	12
インド			4	4
オマーン			1	1
レバノン			1	1
ヨルダン			1	1
アフリカ (4)				
エジプト			3	3
ケニア			1	1
ザンビア	1			1
タンザニア			1	1
ヨーロッパ (7)				
イタリア			1	1
フランス			3	3
ドイツ			1	1
ロシア			1	1
エストニア			1	1
ギリシャ		1		1
アゼルバイジャン		1		1
北アメリカ (3)				
アメリカ合衆国		1	1	2
カナダ			2	2
メキシコ		1	3	4
南アメリカ (6)				
ブラジル		1	4	5
ホンジュラス		1		1
ニカラグア		1		1
ウルグアイ		1		1
コロンビア			1	1
チリ			2	2
計 (42)	84	86	179	349

3. 外国人研究留学生等受入状況

平成 22.4.1 現在

区分 地域・国名等	研究生	特別聴講 学生	特別研究 学生	短期交流 学生	合計
アジア (7)					
中国	6		1		7
韓国	1				1
台湾	3		1		4
マレーシア	1				1
シンガポール		2			2
インド	1				1
香港		1			1
ヨーロッパ (3)					
ドイツ				1	1
オランダ			1		1
ルクセンブルグ			1		1
北アメリカ (1)					
アメリカ合衆国	1				1
南アメリカ (1)					
ペルー	1				1
計 (12)	14	3	4	1	22

4. 招へい外国人学者等受入者数

平成 21 年度

区分 地域・国名等	招へい 外国人学者	外国人 共同研究者	外国人 研究員	合計
アジア (10)				
インド		1		1
インドネシア	1			1
韓国	7	2		9
タイ		2	1	3
台湾		4		4
中国	1	13		14
ネパール	1			1
パキスタン		1		1
バングラデシュ		2		2
マレーシア		2		2
ヨーロッパ (9)				
イギリス	2			2
イタリア	1	1		2
オランダ		1		1
スイス		1		1
スウェーデン	1	1		2
スペイン		1		1
デンマーク		1		1
ドイツ	3	2		5
フランス		1		1
中東 (3)				
アラブ首長国連邦	1			1
イスラエル	1		1	2
イラン		1		1
北アメリカ (2)				
アメリカ合衆国	1	1		2
カナダ	1	1		2
南アメリカ (1)				
ブラジル		1		1
オセアニア (1)				
オーストラリア	1	2		3
計 (26)	22	42	2	66

5. 部局間交流協定締結大学

平成 22.4.1 現在

地域・国名等	機 関 名	締結年月日	学術交流協定	学生交流協定
アジア (6)				
中国	大連理工大学	2003. 7. 3	○	
	同済大学大学院	2005.12.31	○	
	ハルビン工業大学	2008. 9. 1	○	
	上海交通大学	2008. 9. 9		○
台湾	国立成功大学工学院	2006.11.21	○	
韓国	韓国科学技術院	2007. 6. 8		○
タイ	アジア工科大学工業技術研究科等	2008. 5.21	○	
	エネルギー環境合同大学院大学 (JGSEE)	2009.10.19	○	
	キングモンクット工科大学ラカバン校	2009.11.24	○	
ベトナム	ハノイ土木工科大学	2005.12.24	○	
マレーシア	マレーシア工科大学建築都市環境学部等	2009.10.14	○	
ヨーロッパ (7)				
チェコ	チェコ工科大学ブラハ校	1992. 7. 1 1996. 4. 3 (更新)	○	
フランス	グルノーブル工科大学	1991.11.18 1999. 6.23 (更新) 2004. 2.10 (再更新)	○	○
	ピエール・マリー・キュリー大学 (パリ第6大学)	1992.11.10 1997.12.26 (更新) 2009. 8.19 (再更新)	○	
ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク大学工学部	2002. 2. 1 2007. 2. 8 (更新)	○	
	デュッセルドルフ Heinrich Heine 大学数学、自然科学部	2002. 5.17	○	○
	ドルトムント大学	2002.12.18 2007.12.18 (更新)	○	○
	カイザースラウテルン大学	2002.12.20 2007.12.20 (更新)	○	○
	カールスルーエ大学	2004. 3.22	○	○
	フライブルク大学マイクロシステム工学部・工学研究科 (アメリカ合衆国・ミシガン大学を含めた3大学間協定)	2004.10.30 2007.10. 1 (更新)	○	○
	ヨハネス・グーテンベルグ大学 (マインツ) 物理・数学・計算機科学科	2005.12.16	○	○
オランダ	デルフト工科大学	1998. 1. 1 2003. 2.17 (更新)	○	
ノルウェー	ノルウェー科学技術大学 (元トロンハイム大学ノルウェー工科大学)	1990. 9. 1 1996. 4. 1 (更新) 2003. 3.17 (再更新)	○	○
スウェーデン	チャルマーシュ工科大学	2002.12.19 2007.12.19 (更新)	○	
	リンシェーピン大学	2009.11.26	○	○
連合王国	バーミンガム大学工学研究科等	2003.12. 5	○	
北アメリカ (2)				
アメリカ合衆国	ウィスコンシン大学マディソン校工学部	1990. 8. 1	○	
	ワシントン大学工学部	1991.10.15	○	
	テキサス大学オースティン校工学部	1991.12. 1	○	
	レンスラー工科大学工学部	1995. 1. 1	○	
	フロリダ大学教養学部・教養学研究科	2004. 4.26	○	
	ミシガン大学工学部・工学研究科 (ドイツ・フライブルク大学を含めた3大学間協定)	2004.10.30 2007.10. 1 (更新)	○	
	フロリダ大学工学部・工学研究科	2008. 6. 9	○	
カナダ	ウエストオンタリオ大学工学部・理学部	2004. 6.23	○	
南アメリカ (1)				
ブラジル	サンパウロ大学工学部・工学研究科	2004. 6.16	○	
16 カ国	35 大学			

12. 教育・研究プロジェクト等

グローバルCOEプログラム

- 物質科学の新基盤構築と次世代育成国際拠点…………… 平成19年度～
● 拠点リーダー：澤本 光男 教授
- 光・電子理工学の教育研究拠点形成…………… 平成19年度～
● 拠点リーダー：野田 進 教授
- アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点…………… 平成20年度～
● 拠点リーダー：松岡 譲 教授

新工学教育プログラム

- 特色ある大学教育支援プログラム
「コアリッションによる工学教育の相乗的改革」に協力 …… 平成16年度～

寄附講座

- エネルギー資源開発工学 (JAPEX) 講座…………… 平成19年度～
- 社会基盤安全工学 (JR西日本財団) 講座…………… 平成22年度～
(社会基盤安全工学 (JR西日本) 講座 …… 平成20年度、21年度)
- 先端電池基礎講座…………… 平成20年度～
- 先進交通ロジスティクス工学 (阪神高速道路) 講座 …… 平成19年度～

日本学術振興会 (JSPS) アジア諸国との交流事業 拠点大学交流

- 中国 (清華大学) 都市環境 …… 平成13年度～
都市環境の管理と制御

日本学術振興会 (JSPS) 先端研究拠点事業 ——国際戦略型——

- 先進微粒子ハンドリング科学…………… 平成18年度～
参加機関：米国 (フロリダ大学)、英国 (リーズ大学)、オーストラリア (メルボルン大学)
ドイツ (フリードリッヒ・アレキサンダー大学 エアランゲン・ニュールンベルグ)
スイス (スイス連邦工科大学)

科学技術振興調整費

- 高次生体イメージング先端テクノハブ…………… 平成18年度～
- 新領域を開拓する独創的人材の飛躍システム…………… 平成18年度～
- 先端技術グローバルリーダー養成プログラム…………… 平成20年度～
- 低炭素都市圏の構築を担う都市交通政策技術者の育成…………… 平成19年度～

『アジア人財資金構想』高度専門留学生育成事業

- 産学協働型グローバル工学人財育成プログラム…………… 平成19年度～

国際化拠点整備事業 グローバル30

- 京都大学次世代地球社会リーダー育成プログラム…………… 平成21年度～

理数学生応援プロジェクト

- グローバルリーダーシップ工学教育プログラム…………… 平成19年度～

13. 工学部公開講座

平成21年度 くらしと工学	温暖化ガスを地下に閉じ込めよう	松岡 俊文
	検索システムの話	吉川 正俊
	個体照明が拓く明るい未来 —新しい発光ダイオードの開発—	川上 養一
	邪魔な振動と有益な振動	松久 寛
平成20年度 くらしと工学	携帯電話の不思議	高橋 達郎
	健康状態を分子で診る —超高齢社会の新しい診断技術—	西本 清一
	安全なくらしを支える金属の科学 —隠れたナノテクノロジー—	白井 泰治
	暮らしの伝統とまちづくり	高橋 康夫
平成19年度 人と工学のつながり	暮らしの中の音響学	高橋 大次
	温暖効果ガスは、なぜ地球を暖めるのか？	川崎 昌博
	新時代の信号処理—デジタル信号処理と制御理論	山本 裕
	Catastrophe Risk —災害リスク危険度—	Charles Scawthorn
平成18年度 健康を支援する工学	健康のリスクを評価する	森澤 眞輔
	社会を見守る知的環境とロボット	角 康之
	脳の機能を探る先端イメージング技術	小林 哲生
	生体機能を育てる技術	富田 直秀
平成17年度 私たちのくらしを 支える工学	電力システムと超伝導応用	大澤 靖治
	身近なところにあるナノテクノロジー	平尾 一之
	未知の地震と電住まいの安全 —究極の耐震設計とは—	竹脇 出
	小さな機械が創る大きな機会 —マイクロマシンの世界—	田畑 修

14. 図書関係

≫ 蔵書統計

平成 22.4.1 現在

図書室名等	図書 (冊数)			雑誌 (タイトル数)		
	和書	洋書	合計	和書	洋書	合計
1 共通・化学系 (附属図書館配架分)	618	15,884	16,502	138	530	668
2 地球系図書室	16,377	38,989	55,366	900	877	1,777
3 建築系図書室	64,364	33,857	98,221	448	218	666
4 物理系図書室	13,489	41,623	55,112	161	660	821
5 航空宇宙工学図書室	5,217	14,016	19,233	56	222	278
6 電気系図書室	18,081	24,431	42,512	897	672	1,569
7 化学系図書室	7,998	22,080	30,078	74	340	414
合計	126,144	190,880	317,024	2,674	3,519	6,193

15. 予算関係及び建物面積

1. 予算額

区分	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)	平成 21 年度 (千円)	備考
人件費	6,288,665	6,046,902	5,861,277	
物件費	2,194,307	1,833,757	2,289,101	
受託研究費(受入額)	2,659,257	2,636,951	2,569,477	科振費を含む
共同研究費(受入額)	771,705	773,072	700,102	
科学研究費補助金(受入額)	2,776,710	3,298,738	3,445,081	GCOE を含む
奨学寄附金(受入額)	839,722	670,592	397,225	寄附講座を含む

2. 建物面積

平成 22.4.1 現在

区分	面積 (㎡)
①本部地区	
岡田記念館	240
総合研究 3 号館	426
土木工学科教室研究室	484
土木工学地震観測室	24
総合研究 4 号館	2,949
工学部 3 号館 A 棟	664
総合研究棟(工学部 3 号館北棟)	4,613
電気総合館	1,846
旧施設部変電所	514
工学部 1 号館	4,382
工学部研究実験棟	1,093
R I 研究実験棟	2,744
物理系校舎	18,233
工学部 6 号館	1,501
工学部 6 号新館	181
石油化学研究室	175
建築学科製図室	252
建築学教室本館	1,615
総合研究 5 号館	598
工学部坂記念館	784
工学部 8 号館	2,837
工学部 10 号館	508
工学部 11 号館	3,412
工学部 3 号館南棟	1,193
工学部 3 号館西棟	3,910
工学部総合校舎	4,816
その他	186
小 計	60,180

区分	面積 (㎡)
②桂地区	
A クラスター A 1 棟	11,631
A クラスター A 2 棟	9,409
A クラスター A 3 棟	8,451
A クラスター A 4 棟	9,729
C クラスター C 1 棟	25,736
C クラスター C 2 棟	8,738
極低温センター	378
実験排水処理施設	63
EMセンター棟	2,809
桂インテックセンター棟	6,328
事務管理棟	4,695
C クラスター事務棟	295
その他	125
小 計	88,387
③宇治・大津地区	
原子核工学実験室	2,568
超空気力学実験装置室	670
航空工学科風洞実験室	817
総合研究実験棟	2,077
水質汚染制御実験室	789
附属流域圏総合環境質研究センター研究室	500
小 計	7,421
合 計 (①+②+③)	155,988



GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING
FACULTY OF ENGINEERING

京都大学大学院工学研究科・工学部概要
平成22年度版

【編集・発行】京都大学工学研究科総務課広報渉外掛

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂
Tel. 075-383-2010
<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/>

